

4月5日(火)、豊中市立アクア文化ホールで豊能地区公立学校初任者研修及び新規採用養護教諭・栄養教諭・学校事務職員研修の開講式が行われました。当日は、小学校79名、中学校34名、新規採用者9名が出席しました。新年度が始まり、学校では新年度の体制づくりの会議や、新学期にむけての準備や打ち合わせ等が続く中で、午後からの校外研修は、なかなか慌ただしかったと思います。

まもなく迎える子どもたちとの出会いへの期待と不安が入り混じった中での開講式では、事務局長の挨拶にはじまり、服務・勤務条件等についてのお話、そして、豊能地区の小中学校の先輩教員の箕面市立彩都の丘小学校の富岡先生、豊中市立第五中学校の福井先生のお二人からメッセージをいただきました。



#### ☆服務・勤務条件等について

- 信用は、失うことは一瞬ですが、取り戻すのは大変難しいことであると胸に刻み、一つひとつの言動に責任をもって行おうと思います。
- ルールを守って子どもたちと関わることは教師として当たり前のことですが、そのことは子どもたちからの信頼や安心につながるということにも気づきました。
- いじめや虐待、体罰等に関する法令は教員採用試験の勉強等で知ってはいたものの、現場で即座に判断するためにはしっかりと理解しておく必要があると改めて感じました。「初任者であっても、求められることは同じ」という言葉は常に心に留めておこうと思います。
- 自分ではちょっとしたことだと思っても、消せない火になってしまうかもしれないことを聞き、報告・連絡・相談をしっかりと守っていきたくと思いました。

なぜ「報告・連絡・相談」は大切なのでしょうか？

自分のためだけでなく、子どものため、学校のためにも日ごろから教職員同士の連携・つながりは大切だからです。4月からの新しい環境で、忙しそうにしている先輩の先生には声をかけにくいなあ…、なかなか聞きにくいなあ…という思いは、先輩方も通ってきた道です。

「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」と唱えてから思い切って自分から声をかけてみましょう！

#### ☆先輩からのメッセージ

- 分からないことは聞いていいということ、自分自身の健康を大切にすることなどのアドバイスがすごく温かかったです。働くことと休むことのメリハリをつけて、元気に過ごせるように心がけたいです。
- 「重要なのは修正力」という言葉が印象に残っています。人を相手にしている仕事だからこそ毎回のベストアンサーを探す仕事なんだと改めて感じました。
- つらい時期があったとお二人ともおっしゃっていましたが、それを乗り越えると学び続けたいという気持ちや達成感がもてるということをお二人のお話から感じました。

不安な気持ちや、悩むことは誰しもあると思います。お二人の先輩の言葉や実際の経験談がこれからの初任者・新規採用者としての一年の過ごし方や考え方のヒントになれば幸いです。一日一日を大切に、価値ある経験をたくさんしてください。どうか勇気をもって進んでいってください！

## ☆安心して夢に向かってかかわりあう関係を☆

研修の後半は、大阪多様性教育ネットワークの沖本和子先生による講義・演習でした。子どもと向き合う上で大切にしたいことや、子どもの見方、接し方、言葉かけについて、間近に迫った子どもたちとの出会いを前に具体的なイメージをもつことができたのではないのでしょうか。

講義から1か月以上が経ち、実際に子どもたちと過ごす中で、改めて講義での沖本先生の言葉や、演習での自身の気づきは、どんなことが残っていますか？今、まさに実践していることや、これから取り組んでいきたいこともあると思います。本日返却された自身の振り返りシートの記述や、以下の抜粋から講義での学びを思い返してみてください。

○子どもたちが不安を出せる場所＝安心できる場所というお話が印象的でした。「不安を口に出す」ことをネガティブにとらえていましたが、そういった気持ちを表現できることは大事なのだと知りました。安心の3つの約束はクラスでも実践しようと思います。自分が子どもの頃を思い返すと「パス」や「分からない」を伝えることが怖かったです。クラスの子どもたちが安心して「パス」できるようにしたいです。

○講義を聞いている私自身もいつの間にか安心することができていました。沖本先生のお話には否定的な言葉がまったくありませんでした。子どもたちになってほしい姿を伝えるとともに、自分がしてはいけない行動もあるなど気づかされました。どんなクラスにしたいか、何を軸にしたらよいかを考えていましたが、「安心」は教室の中でとても大切なキーワードだと思いました。

○価値観のずれは相手の気持ちをくみとるヒントだと気づきました。どんな話であっても一人ひとりの感じ方はそれぞれであるため、不安な気持ちの子どもがいることを忘れずに日々言葉に気をつけていきたいです。

○沖本先生の優しくてあたたかい話し方が印象に残っています。子ども理解を深め、すべての子どもたちが安心できる場をつくるためには、環境を整えたりルールを設けたりするだけではなく、教師自身が子どもたちにとって安心できる場になる必要があると感じました。



これまでみなさんが抱いてきた「先生になりたい」という夢は、採用試験の合格で果たせたのかもしれませんが、しかし、今、みなさんが立っているのはスタートラインです。みなさんのこれからの夢は何ですか？どんな先生でありたいですか？

☆「振り返りシート」には、これから初任者・新規採用者として過ごす一年の意気込みや、年間を通して受講する初任者研修・新規採用者研修に対する思い、大切にしたい心持ちもたくさん書かれていました。

○自分自身の考えをいつまでも柔軟に変化させることができるように子どもたちや先輩の先生方、友人など様々な人と積極的に関わっていきこうと思います。

○実践的なお話も聞けて、同期にも会える機会なので、たくさんのことを吸収できるように前向きに研修に参加していきたいと思いました。

○「研修も仕事の一つ」という言葉が印象的で、今後さらに力を入れて参加したいと思いました。市町を越えたつながりができるのも研修のよいところだと感じました。

○研修では、模擬授業を行ったり少人数での教材研究をしたりすることもあると知り、緊張感が高まりました。これから一年間、意欲をもってしっかりと学び、充実した時間にしていきたいです。

初任者・新規採用者としての一年は本当に「学ぶこと」が多いです。気になること・考えること・感じることも多いとも言え換えられるのかもしれませんが、所属の市や町は違えど、同期として共に高め合い刺激し合える関係を大切にしてください。また、楽しさや嬉しさはもちろん、時には苦しいことや悩みや不安も口にしながら、同じ初任者・新規採用者だからこそ共感できる関係を大切にしてください。研修での出会い・つながりを励みに、豊能地区で共にこれからも学び続けましょう！